

ビオトープ 水辺の植物

ビオトープの池で見られる植物をご紹介します♪



ハンゲショウ

水辺や湿地に生えるハンゲショウ。エコパでは、ビオトープの池にかかる棧橋の近くで見られます。

7月上旬、穂のような花が咲くころ、上部の葉が白くなるので「半化粧(はんげしょう)」の名がついたと言われています。白くなるのは、虫を誘うためので、花の時期が終わると緑色になります。



「片白草
(カタシログサ)」とも呼ばれています

ハンゲショウと半夏生

季節の移り変わりをあらわす特別な暦日を雑節と言います。(節分や八十八夜など)夏至から11日目を雑節で「半夏生(はんげしょう)」と言い、ハンゲショウの葉が色づく時期だから、という説もあるそうです。2017年の半夏生は7月2日です。

ヒシ

夏にちかづく、池の一面を覆うたくさんの水草が現れます。特徴的な菱形の葉っぱをしているのは、その名も「ヒシ」。



葉のつけ根がふくらんで空気を含み、おかげでプカプカと水面上に浮かんでいます。7月ごろから白い花を咲かせ、花が終わった後、大きな種を付けます。秋に実が熟すと水底に沈み、冬を越します。

繁殖力が強く、時折厄介者あつかいされます

実の殻はトゲトゲしていて、とても硬いですが、茹でて殻をむいて食べると栗のような味なんだとか！



忍者が使う「まきびし」の
もとはヒシの実だったようです！

